

1. 調査概要

1-1. 調査概要

(1)調査の目的

平成 23 年に都市再生特別措置法の改正がなされ、地域住民等自らが、まちなぎわいや利便性の向上などに創意工夫を活かしたまちづくりを行えるよう、広場、歩道、歩道に設置するベンチ等、まちなぎわいや利便性を高める施設等の設置・管理等を円滑に進めるための制度や、道路空間を活用したにぎわいのあるまちづくりを実現しやすくする制度等が創設された。

このうち、道路空間を活用したにぎわいのあるまちづくりに関する制度については、公共空間における民間の収益活動を積極的に認めることにより、まちの活性化及び管理の高質化を可能にしようとするものであることから、制度の普及にあたっては、公共空間の管理者である市町村と、占有者となってオープンカフェ事業等を実施する民間の事業者の双方の理解を深めていく必要がある。

過年度に実施した調査等を通じ、セミナー等による市町村等への普及活動や情報収集、取組みへの技術的支援を行った結果、実務的な取組みが複数都市で萌芽するとともに、大都市や中核市でオープンカフェ事業等が実現するなど一定の制度定着が見られることとなった。

一方で、これらの取り組みを推進するためには、官民ともに知識の普及啓発と体制整備が不可欠であるが、例えば、米国では Project for Public Space.org 等によるパブリックスペース改善の実践活動等を通じて、一定程度認知されているが、我が国ではプレイスメイキング¹に係る一般図書の刊行等も無い²など、国内での認知を拡大する環境が整っておらず、先進諸国に大きく立ち後れている状況にある。

そこで、本調査では、都市空間の魅力の増進として、居心地を良くし、賑わい・活気を創出する、いわゆるプレイスメイキングに係る先進的取り組みとその推進体制等を取りまとめるとともに広報方策の素案を取りまとめることにより、プレイスメイキングの推進に資することを目的とする。

¹ 世界的には、以下のような様々な定義が存在するが、本調査では、プレイスメイキングは、「従来型のまちの再生・まちの活性化手法に問題を抱えている全てのまちづくり推進主体向けの、近代都市への反省を踏まえ、提唱されてきた人間の感覚・認知に寄り添った空間整備手法であり、リラクセス状況下における知的な刺激が、人的交流を育み、人々の創意工夫やモチベーションを引き出し、滞留時間を増大させ、経済活動を活発にすることができる。そして、“補助金依存型のまちづくり”や単なる“商店街活性化”、“空き家再生”、“町家活用”、“アーティスト・イン・レジデンス”等とは違ってこの方法論には、補助金に依存しない自立的・継続的なまちづくりを実現・定着させ、快適な都市空間の形成・維持し、住民等の地域への愛着や地域活力を向上させ、整備や管理に係るコストの縮減が図られるといった都市の多面的な課題解決力が備わっている」と捉えている。

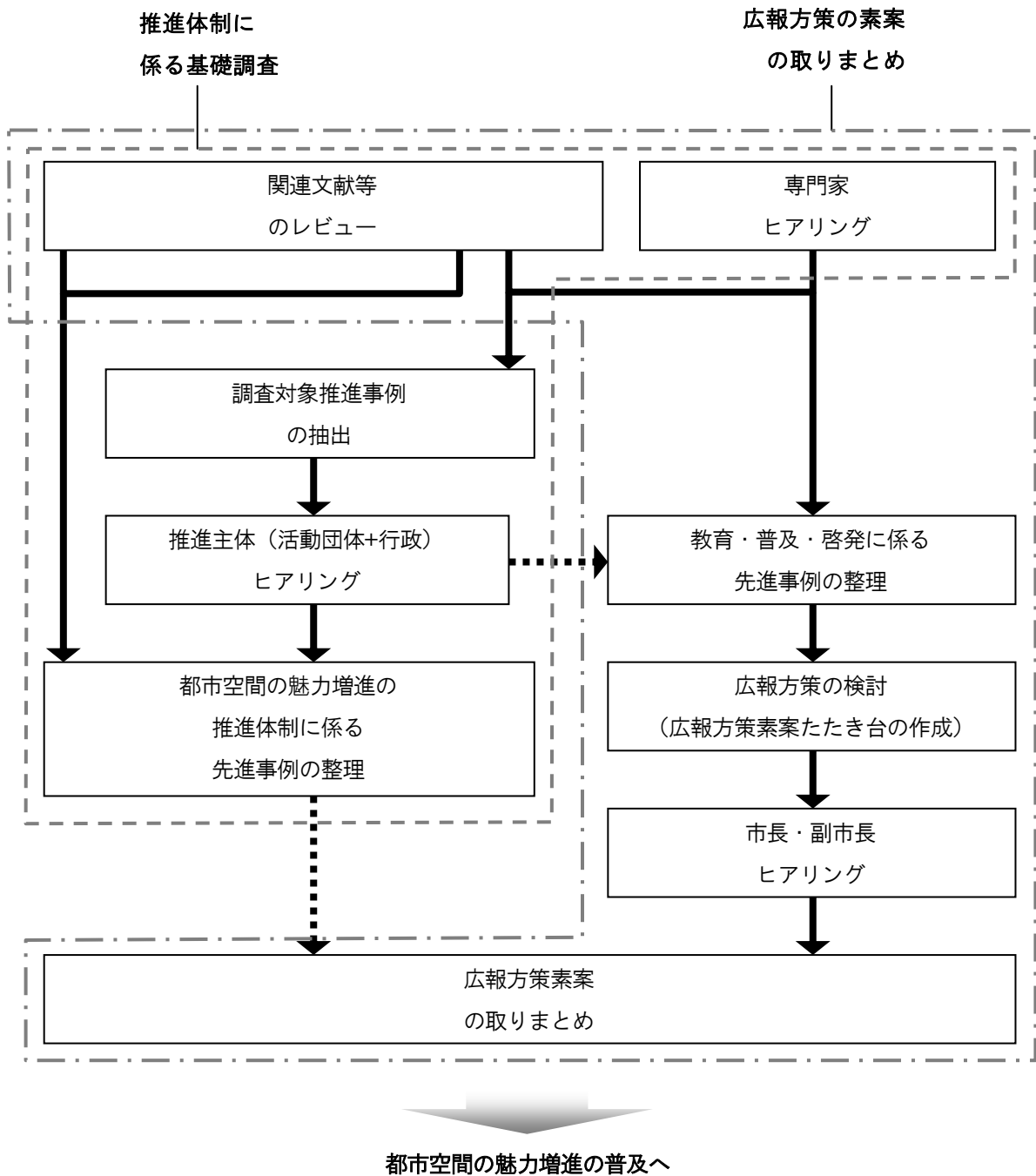
「全ての人が今住んでいる場所の中に自身を発見できる場所に変えていく方法である。」
『Placemaking: The Art and Practice of Building Communities』(Lynda H. Schneekloth, Robert G. Shibley、1995)
「プレイスメイキングは、あらゆる都市において、全てのコミュニティの中心として公的空間 (Public Space) を再びイメージし直す謙虚な活動である。そして、それは公的空間を創出・改善する元気を人々に与える変革のアプローチでもある。プレイスメイキングは、人と共有する場所との繋がりを強化する。プレイスメイキングは、人々が共有する価値を最大化するために、協力して公的空間を形成する方法である。地域密着型の住民参加に根ざし、公的空間の計画、設計、管理、運営に横断的に跨る。ただ単に良い公的空間のデザインを進める以上に、プレイスメイキングは、場所の特性を際立たせ、その継続的な成長を手助けする活動と (文化的、経済的、社会的、生態学的な) 繋がりの広がりを生み出しやすくする。プレイスメイキングは、この星の現在と未来を協力的、意識的に形作っていくための手法である。」

(Project for Public Spaces ホームページ)
「プレイスメイキングとは、公共空間のプランニング、デザイン、マネジメントに対する多角的アプローチである。地域資源、地域の特徴、そこに住む人々の意見・ひらめきを最大限活用し、究極的には健康的な生活と幸福を実現することができる素晴らしい公共空間を創出するための方法論であり、哲学である。」

(Project for Public Spaces 旧ホームページ)
² 「プレイスメイキング」という用語がタイトルについている一般図書は、平成 27 年 2 月現在、我が国では出版されていない。但し、次章で整理する通り、プレイスメイキングという用語は利用していないが、『Cities for People (邦題『人間の街 - 公共空間のデザイン』) (ヤン・ゲール、2014 年)、『オープンスペースを魅力的にする - 親しまれる公共空間のためのハンドブック』(プロジェクトフォーパブリックスペース、2005 年)、『Life Between Building (邦題『建物のあいだのアクティビティ』) (ヤン・ゲール、2011 年)、『吉祥寺スタイル』(三浦展、渡和由研究室、2007 年) 等、プレイスメイキングの考え方に基づく、空間づくりのあり方等について論じている一般図書は存在する。

(2)調査のフロー

本調査は、以下のフローに基づき、推進する。



調査フロー図